

## 平成29年度の振り返りと30年度の方向

岐阜県小中学校教育研究会 中学校国語科研究部会 主務 七宗町立上麻生中学校 今井 則雄

### 1. 平成29年度事業の振り返り

#### (1) 第46回全日本中学校国語教育研究協議会岐阜大会を終えて

10月26日(木)・27日(金)に、平成27年度からの3年間の研究成果を発表する「第46回全日本中学校国語教育研究協議会岐阜大会」を開催しました。当日は、のべ516名の先生方が大会に参加され、全体会、公開授業、分科会それぞれ盛況のうちに会を終えることができました。

大会1日目の夜、鹿児島県中学校国語教育研究会会長の校長先生が「本当に気持ちがいい大会ですね。皆さんの動きに参会者に対する心配りが感じられます。」とおっしゃっていただいたことを思い出します。再度校長先生と2日目に岐阜大学教育学部附属中学校でお会いしましたが、「授業も実践発表も本当に素晴らしかったです。提案性もありました。特に生徒が大変主体的でよかったです。持って帰って県に広めたいと思います。」と握手をいただいたことを昨日のこのように思い出されます。また、参会者の感想では、「圧倒された」という表現で認めてくださった先生もおられ、「オール岐阜」で取り組んだ成果が表れているように感じました。

このような素晴らしい大会にすることができたのは、岐阜県の先生方の「熱意」に他なりません。大会1日目の午前、岐阜駅構内に向かったところ、案内1時間前にもかかわらず全国の先生方を誘導するために準備をしてくださる姿。大会2日目、受付で名札が足りなくなった際、その場にあるもので対応してくださる姿。授業が開始されても遅れてきた方を案内できるように駐車場の外で誘導していただいていたお姿。HP作成や紀要編集、書類申請、会計処理、岐阜特別支援学校高等部の生徒などすべての方々が真摯に支えていただけたことが成功の要因だと思います。

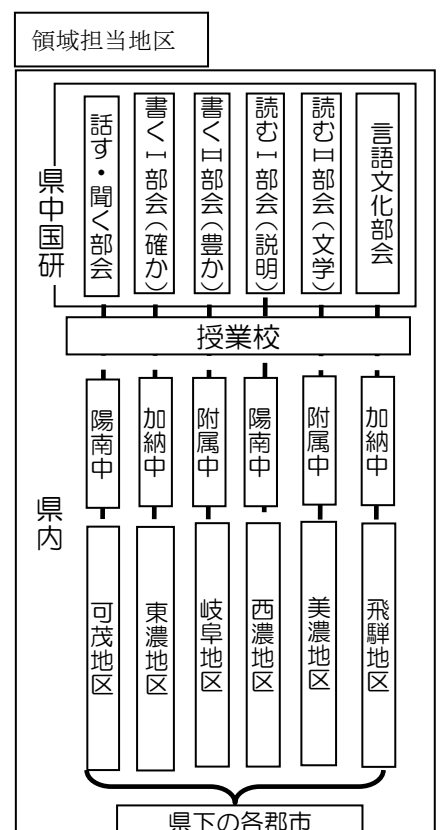
#### ① 全県下の国語科の先生方の協力（オール岐阜）

既に平成27年度より、右図のように各地区の教科研に一つの領域を担っていただき、その領域についての研究を進めていただきながら、県中国研各研究部会及び授業校と連携を図ってきました。研究部ごとに授業の参観、合同の研究会など大会本番に向けてさらに連携を密にして取り組んできました。

また同時に昨年度までに作成してきた「生きてはたらく言語能力を具体化する・一覧表」を全県下中学校に配付し、単元・授業のねらいの設定や評価に生かしていただけるようにした。実際に他県の先生方から「大変価値のある資料として持ち帰って広げたい」とおっしゃっていただいたり、一覧表の内容から「ねらい」「評価規準」を定めた研究授業の報告もお聞きしたりしました。県中国研の研究成果が県内外で広く活用されたことは大変うれしいことです。

#### ② 「学びあい、学ぶ組織」としての事業運営

上記の体制のもと、県内の先生方が多く授業づくりに参画できるよう、年間の活動を計画的に配置し、その在り方を考えてきました。



## □ 夏季研修会による授業・発表内容の検討

8月18日(木)に行った本年度の夏季研修会は、全国大会に向けての準備と位置付け、県中国研研究部と各地区の先生方とで実践発表内容及び公開授業指導案の検討会としました。

研究部で互いの実践発表プレゼンを見合っって意見を述べ合ったり、公開授業指導案について議論しあったりすることでより授業の中身が磨かれたり、プレゼンの内容が明確になったりしました。こういった活動を県下で行うことで、一体となって全国大会に向かう大きな一歩となったと思います。

県中国研研究部と、各地区の市郡教科研、そして授業校とで連携を図り、各領域・事項についての研究を進めてきました。全国大会に向けての取組、発表を通して得た成果を以下のように考えます。

- 各地区と研究部、運営部と岐阜地区の先生方、総務部・編集部などの連携によって、「オール岐阜」の体制で臨むことができた。
- 指導案検討、発表内容検討等も協力して進めたことにより、理念や研究内容を共通理解することができ、組織全体での研究として理論をもったものになり統一感がもてたこと。
- 学校や地区を越えた国語科教員のつながりが育まれたこと。

三点目については、授業校である加納中学校・陽南中学校・岐阜大学教育学部附属中学校の先生方には全校体制で支援していただき、国語科という枠を超えて素敵につながりを感じることができました。こうした組織の力、その中で生まれた人と人とのつながりを、今後もさらに広げていけたらと思います。

## (2) その他の事業

### □ あしたの授業を考える会(若手の会)

特に20代の先生方を対象とした、日頃の授業に対する悩みや授業へのアドバイス等を交換し合う研修会「あしたの授業を考える会」を、本年度も夏季(8/1)冬季(12/27)の2回開催しました。

夏季の会は、全国大会で発表する各地区のプレゼンテーションを6提案すべて見る会としました。各地区の先生方が作られたプレゼンテーションは、全国大会では一つしか見られませんが、この日はどの領域の提案も見ることができた貴重な経験となりました。



冬季の研修では、内容ごとの小グループ形式で行ったが、日ごろ悩まれていることやこの後に実施する単元の指導の在り方などについて、リラックスした雰囲気の中で相談する様子が見られ、参加された先生からは今回もご好評をいただくことができた。

「少年の日の思い出」について、色々と教えていただくことができました。昨年度と違い、特性をもった子どもが多く、授業の方向性がなかなか定まらず困っていました。しかし、先輩の先生方が、それぞれどうやって授業を進められてこられたか、どんな資料を活用されてこられたかなど、一つ一つ丁寧に教えてくださったり、板書を見せてくださったりして頭の中で授業のイメージをもつことができるようになりました。昨年教えた時よりも、更に深く効果的な授業を作ることができそうです。冬休み中に、同じ学年の先生と相談しながら形にしていきたいと思います。また、同じような会がありましたら積極的に参加したいです。

多忙な日々の中では、悩み惑うことがあってもなかなか立ち止まってじっくり考えることは難しい、そうした先生方の力に少しでもなれるよう、来年度以降もこうした営みを大切にしていきたい。

### □ 「ぎふこくご」実践論文

本年度も年度末の「ぎふこくご賞」実践論文募集と審査を行い、計19点の応募をいただいた。若手の先生から経験ある先生まで、熱意ある多くの実践から学び、その学びを広めることができた。

### (3) 各事業成果及び来年度以降の改善点

#### <組織・全国大会の運営>

- ・県の研究部会と開催地区の教科研、授業校が連携を図って研究を進め、指導案検討、発表内容検討等も三者で協力して進めたことにより、県と地区とが研究理論を共有し、発表を厚みのあるものにすることができました。来年度以降も、こうした県研究部と各地区、市郡の教科研が連携して「岐阜県国語科としての研究」を進めていく姿勢を継続し、より発展させていきたいです。
- ・大会当日には、のべ516名ほどの先生が参加され、盛況のうちに大会を実りあるものにすることができた。これは代議員の先生方が積極的にアナウンスしてくださったこと、岐阜地区の先生方が主体的に運営に関わってくれたことなど、「オール岐阜」という姿勢で県内の国語科の先生方が力を寄せてくださったことが非常に大きいと思います。こうした営みによって、学校や地区を越えかかわって国語科の先生方のつながりが育まれたことを大きな財産とし、今後も大切にしていきたいと思っています。(会場校の加納中・陽南中・附属中では、全職員でバックアップをしてくださいました。)
- ・「全体会・授業会場の会場づくり・役割分担」は運営部の先生方、授業研究・会の内容については研究部の先生方、紀要や外部との交渉を総務部と、役割を明確に分担したことで、多岐にわたる運営業務を整理して取り組むことができた。

#### <その他>

- ・平成25年度から発足した「あしたの授業を考える会」は、本年度も継続したが参加された先生方からは大変好評をいただいている。しかし、参加人数が少なくなっているため、初任の先生方や初めて中学校に勤務される先生方、一人教科部会の先生にお声をかけて一緒に考える場を作っていくことが望ましい。
- ・「ぎふこくご賞」の募集については、本年度当初に代議員の先生方に要項の配布をお願いし、その後要項を県内全中学校にメール配信したが、それでも年度末に多くの呼びかけを要した。各地区での認知度を高めていくための方法をさらに模索していく必要がある。

### 3. 平成30年度 県中国研の方向

全国大会が岐阜地区で行われたため、県大会の順番が変更した。再度地区大会の順番を組み直した結果、平成33年度の県大会・飛騨地区大会が正式に決定しました。(H36 美濃、H39 西濃、H42 東濃、H45 可茂、H48 岐阜の予定になります。)本年度の全国大会の成果を礎としたうえで、33年度への歩み出しとなるのが来年度です。

このことから、来年度の方向を大きく以下の二つとしたいと思います。

#### (1) 29年度全国大会に向けての研究組織を固める

29年度の振り返りにも述べたように、全国大会では、全県で一つの方向に向けて取り組めたことが大きな成果であった。この岐阜県中学校国語科のよさをさらに広げ、結び付きを強いものにしていきながら、県大会に向けて研究組織を整えていきたい。具体的な体制として、以下のようにする。

#### □ 県大会公開授業に即し、研究部会を4部会とし、各地区と連動する

飛騨地区大会では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語文化部会」で一つずつ、計4つの授業公開及び研究の発表を行う。

○平成30年度 年間活動計画（予定）

月	事務局				研究部	
	総務	広報	編集	会計	研推	各研究部会
4	本部役員委嘱状発送（主務） ○本部役員会（5月初旬） 代議員派遣依頼・研究部員派遣依頼発送（総務）				研究部部長依頼（会長）  研究部員依頼（部長）	
5	○ <b>第1回代議員会・研究部総会（5月15日〈火〉）</b> <b>場所：岐阜市東部コミュニティーセンター</b> ・主務—研究組織、活動計画の提案 ・研究部—研究テーマ、研究計画の提案 ○代議員「研究テーマ・領域」報告				○ <b>研究部総会（5月15日）</b> 研推①：研究計画	
6	○各郡市校外研				☆第1回研究部会：研究テーマの提案、研究計画	
7	「国語の学習」改訂作業（編集）				☆第2回研究部会：研究内容検討	
8	○「第1回 あしたの授業を考える会（若手教員を対象にした研修会）」 ◎ <b>夏季研修会（8月20日〈月〉場所：岐阜市教育研究所）</b> ・講師をお呼びして講演会など ・各領域・部会での実践交流会、研究テーマ検討等				☆第3回研究部会：実践交流	
9	○「ぎふこくご」企画会（広報）					
10	○各郡市校外研					
11	「ぎふこくご」原稿依頼発送（広報） 研究部員原稿依頼（部長）					
12	○「第2回 あしたの授業を考える会（若手教員を対象にした研修会）」 ○「ぎふこくご賞」実践論文，各郡市の指導案の提出状況確認（副総括）				☆第4回研究部会：年度のまとめ	
1	「ぎふこくご」校正（広報） 役員会派遣依頼状発送（総務） 会計処理と監査（会計）				研推③：来年度の方向について  実践記録受付	
2	○本部役員会（2月上旬）→ぎふこくご賞・代議員会 代議員会派遣状発送（総務） ○ <b>第2回代議員会・研究部総会（2月20日〈水〉）</b> <b>場所：岐阜市教育研究所</b> 「ぎふこくご」配布（広報） 「国語の学習」「漢字のとびら」「国語便覧」宣伝（編集）				○ <b>研究部総会（2月20日）</b>	

## 代議員の先生方へお願い

**重 要**

全国大会をはじめ、多くの場で県中国研の活動にご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。来年度以降も研究部員として残っていただき、各地区に研究の財産を広げたり研究部を盛り上げたりしていただけるとありがたいです。ぜひ、よろしく願いいたします。最後に、来年度への引継ぎ事項及び、その際の提出物のお願いがありますので、何卒よろしく願いいたします。

- 全国大会当日に参加されなかった先生で協力金 4000 円をお支払いいただいた先生方に紀要を配付させていただきます。お名前がついておりますので先生方にお渡しください。(ぎふこくご、便覧、漢字のとびらのサンプルと共に)
- 来年度 (H30年度) の代議員の先生が決まりましたら、別紙のFAX用紙に所属名とご氏名を記入し、FAXでお知らせください。
- 全国大会の財産を各地区で広めるために「生きてはたらく言語能力」一覧表や言語活動一覧表、全国大会指導案などを使って、3領域1事項に広げて研究を進めてください。
- 8月20日の統一研究日に「夏季研修会」を行うこと、この会は全会員を対象に行うので、各地区の先生方にもぜひ参加していただくようお願いしてください。
- 「あしたの授業を考える会」を8月、12月に企画しております。新学期の授業をどうしていこうかと考えておられる先生方と一緒に考えたいと思います。ぜひ参加を呼びかけていただきたいです。
- 「ぎふこくご賞」を毎年行っています。学校で提出した実践記録と全く一緒に構いません。ぜひ副総括まで、提出ください。

次の飛騨地区開催に向けて、本年度の成果を踏まえて連携強化を図って生きたいと思っております。よろしく願いいたします。